

かわねほんちょう 議会だより

第53号

平成31年2月発行

発行 / 川根本町議会

編集 / 議会広報委員会

1月6日に開催された
川根本町消防団出初式での一斉放水



～ 24時間365日、火災対応に安心と感謝～



第4分団のポンプ車操法の様子

平成30年度補正予算……………	2
伝統文化伝承館の条例制定……………	3
伊豆視察研修報告……………	4～5
4人の議員が町政を問う……………	6～10
大井川源流部視察……………	11
寸又峡あかり展・久野脇いきいきクラブ…	12
皆さん、知っていますか？ （やぶきた茶導入・中村光四郎氏）……	13
明日を拓く人たち （農事組合法人わらやま）……………	14

一般会計補正予算成立

12月定例会が開催されました。

定例会2日目（12日）川根本町高齢者デイサービスセンター条例一部改正等2件、公の施設の指定管理者の指定について6件、一般会計補正予算6件、議員発議1件など全て全員賛成で可決しました。

最終日（20日）には、第二常任委員会に審査を付託した「川根本町伝統文化伝承館条例」の制定について委員長から報告後、全員賛成で可決しました。

一般会計補正は **2億2,862万円** の追加

総額 64億5,378万円

主な内容

① 高度情報基盤設備修繕費（台風24号、落雷等）	521万円
② 飲料水供給施設修繕費（原山・原山西・向井）	280万円
③ 補助事業産地パワーアップ事業費（碾茶加工施設）	4,826万円
④ 中山間地域農業振興事業費（荒茶加工施設）	333万円
⑤ 寸又峡グリーンシャワーロード改修工事（擬木階段100段）	268万円
⑥ 下長尾職員住宅屋根等修理費（台風24号被害）	226万円
⑦ 町道閑蔵支線災害復旧工事事業費	7,692万円

台風被害に対する
復旧が必要です



下長尾教職員住宅



台風24号により被害を受けた町道閑蔵支線

12月議会 で決まったこと

第二常任委員会審査報告

審査日 平成30年12月12日

条例改正

議員発議

一般会計補正予算のほか、台風24号被害による接叡峡温泉の引湯管復旧経費、人事異動に伴う人件費の補正による温泉事業、介護保険事業、訪問看護事業、いやしの里診療所事業の各特別会計補正予算も全員賛成で可決しました。

なお、12日（定例会2日目）には、「職員等の給与に関する条例の一部を改正する条例」に伴う一般会計・特別会計の補正予算が上程され、20日（定例会最終日）に原案どおり可決されました。

条例制定

○伝統文化伝承館条例

の制定

伝統文化伝承館の管理・運営等に関する事項を定める条例の制定

○高齢者デイサービスセンター条例の改正
○生きがい対応型デイサービスセンター条例の改正

「むつみの郷」の名称を変更し、「高齢者デイサービスセンター」として活用するための改正

○職員の給与に関する条例の改正

国の基準に従い特別給の支給月数を0.05月引き上げるもの

○特別職の職員で常勤のもの給料等に関する条例改正

特別職の期末手当支給率を年間0.05月引き上げ、年間4.5月に改正

指定管理者の指定

○公の施設の指定管理者の指定について

指定管理期間の満了に伴う指定管理者指定
高齢者デイサービスセンター他3施設

町社会福祉協議会
自然休養村管理運営施設
まちづくり観光協会

寸又峡温泉野天風呂施設
寸又峡美女づくりの湯
観光事業協同組合

川根本町伝統文化伝承館条例の制定について

この条例は、平成31年4月1日開館する「川根本町伝統文化伝承館」の管理及び運営等に関する事項を定めるため、新たに条例を制定するもの。

問 施設使用申請の受付はどこですか。
答 本庁舎及び支所でも受付できるような形で行いたい。
問 使用時間は、特に必要と認めるときは変更できるか。
答 時間だけでなく、年末年始の閉館日でも町長が認めたものについては、使用できるよう対応したい。

問 指定管理とする場合は、どのように決めるのか、条件等はあるか。
答 教育委員会、社会教育施設運営委員会などにはかりながら、金額等についても決めていくことになる。
問 指定管理とする場合の期間は、他の施設と同様に3年程度と考えるか。
答 指定管理が具体的にないが、指定管理とする場合には、そのような対応で行いたい。
問 使用料の料金設定根拠は。
答 伝統文化伝承館の目的

第二常任委員長

坂本 政司



完成間近の「伝統文化伝承館」

研 修 報 告

11月12日から14日までの3日間、町議会では静岡県伊豆地域へ視察に行ってきました。同じ静岡県内で、人口減少や産業振興など、川根本町と同じような課題を抱える伊豆地域の移住定住対策や産業振興施策などへの取り組みを視察し、今後のまちづくりへのヒントを得る機会となりました。

伊豆市『ドットツリー修善寺』

- ◆2016年3月オープンした後、移住促進問題の成功先進事例として視察を有料で受入れている
 - ◆行政の補助金に頼らない、民間出資100%・民間企業と協働プロジェクト
 - ◆経営アドバイス付の住宅+オフィス 全12棟は満室（家賃：月額13万5千円）
 - ◆ドットツリーに関する積極的広報、視察受け入れ、ビジネス連携、コミュニティとして入居者が連携活動をしていくことで、家賃の内月額3万円は減額され、異業種同士交流し、個性を発揮しやすい仕組みがとられている。
 - ◆首都圏、伊豆市周辺で事業に成功した起業家（カメラマン・翻訳家・トレイルランプロデューサー等）が移住
 - ◆キーワードは「一業種／一社」・「特定少数」、「伊豆の総合商社」を目指していく。
 - ◆周辺には、スーパー、電器屋、ホームセンター等があり、歩いて日常品が何でも揃う環境
- 川根本町は、「ゾーホージャパン」のような“サテライトオフィスの誘致促進”“川根高校留学生卒業生の移住定住”などを推進していくことが必要と思った。



理想のワークライフバランスを創る住宅とオフィス



西伊豆町 “伊豆半島ジオパーク”

- ◆ジオガイド協会から堂ヶ島周辺のジオパークガイド実践について実地説明を受けた。
かつての観光ガイドとは異なり専門性が強かった。
- ◆西伊豆は良い景観に恵まれているため、伊豆半島ジオパーク全体の中でも見どころが豊富にある。
- ◆伊豆半島ジオガイド協会は、約100名の会員で構成されていて、観光案内のレベルアップのため、ガイド料をしっかり受け取るよう指導しているとのこと。
川根本町でも、南アルプスエコパークの景観や登山のガイドによる氷河期の遺物や自然環境等を紹介するプログラムを更に積極的に展開したら良いと思う。



田子・燈明ヶ崎遊歩道でのガイドの様子

“まちづくり課・企画調整課・教育委員会”

- ◆地域おこし協力隊の活躍（7名在籍、当日2名が実践報告）
（本間隊員）趣味で始めたドローンでの空撮を町内観光事業に利用
（鈴木隊員）伝統食品「塩カツオ」の販売・振興
- ◆移住定住促進 空家物件が少ないため、実績が少ない。お試し住宅戸を、首都圏の利用者を中心に30組65人が2年8ヶ月で413日使用。その内2名が町内に移住。今後、移住しなかった人へのアンケートなどから次への対策を検討する。
- ◆県茶愛飲条例への取り組み 主に学校給食用として、平成30年度に川根茶81.4kgを購入。賀茂小学校では、賀茂給食センター栄養士が自ら日本茶アドバイザーを取得し、「川根茶淹れ方教室」を開催。また、田子小学校では、“川根茶倶楽部”のメンバーが講師となり、同教室を開催した。



ドローンの活用を説明する地域おこし協力隊

～人口減少に対する対策を県内自治体から学ぶ～

町議会 伊豆地域視察

特別養護老人ホーム「エクレシア南伊豆」

南伊豆町に東京都杉並区との連携にて、特別養護老人ホームが誕生。

杉並区との連携による特養開設の経緯

- ◆平成23年 国家戦略会議にて民間議員より都市部の特養待機者と地方の地域活性化発言
- ◆平成24年 日本再生戦略の閣議決定・他自治体立地の介護施設との連携事業の研究
- ◆平成25年 厚生労働省へ関係法令の改正及び技術的支援の要望

以上のようなハードルを乗り越え、課題であった介護保険事業の負担についても解決し、両町がウインウインの関係になれることを目標に、構想から7年後の平成30年3月に、自治体連携による**全国初**の特別養護老人ホーム「エクレシア南伊豆」が開所された。

両者のメリット

(杉並区) 特養待機者への対応・整備費の低コスト実現・多様なライフスタイルの選択肢

(南伊豆町) 雇用の創出・家族の面会等による観光や地域経済の活性化

施設では、家庭での生活に近づけるために、グループを小さく分ける工夫が見られた。

担当者からは、問題点として、介護士不足を挙げられ全国の介護施設同様、介護士の確保は今後の最重要課題であると感じた。



エクレシア内説明風景

松崎町地場産業の再生事業の取り組み 桜葉の塩漬け日本一の生産量の維持と再生へ

松崎町は日本で最も美しい村連合に加盟しており、海辺と山間部との違いはあるが、人口6,768人であり川根本町と共通点を持ち合わせている。

地場産業の桜葉は、古くから塩漬けにして和菓子などに利用され、国内生産の約7割を誇る町の地域資源となっている。しかし、国内では安価な中国産との競争にさらされている。

町内に塩漬け業者が2軒あるが、言いなりの値段での取り引き価格が続いていたため、桜葉生産者は900世帯から38世帯まで減少し、平均年齢は75歳・2人世帯位が採算ラインと考える。

担当職員の熱意を強く感じ、川根本町議員からもいくつかの意見が出された。

- ◆桜葉の仕分け作業を機械化できないか？
- ◆生産から、製品として販売まで手掛ける必要があるのでは？
- ◆松崎産であることを国内の和菓子屋さんへ直接アピールする。

などの意見が出され、川根本町のお茶の状況も心配しながらの発言であったと思う。

このような状況から、何も手を打たないと衰退の危機が待ち受けていることを認識した。

今後、川根茶の高級茶としての発信・生産農家からの直接販売の拡充・碾茶など、時代の流れをつかむことなどが必要と感じた研修となった。



桜葉を見て茶葉を思う

一般質問

- ・質問の概要を発言順に掲載します。
- ・一般質問のページは、質問した議員が執筆・編集しています。

7 ページ	石山貴美夫 議員 安心して年を重ねていける町に、今、重要な4つの課題を問う
8 ページ	山本 信之 議員 自治財政状況について
9 ページ	藺田 靖邦 議員 公共施設の展望について
10ページ	野口 直次 議員 大井川の水利権更新、町の考えを問う

4人の議員が町政を問う！
12月定例会最終日に一般質問を行いました

あの一般質問

どうなったかやあ～

質問者：中田隆幸議員

幼小中の教育施設でのトイレの状況について

(平成29年12月定例会)

Q. 小中学校の生徒用には洗浄機能が付いているが、職員用には付いてないところがある。

A. 対応していない学校もあるので、それも含めて計画的に対応していきたいと考えている。

現状. 平成30年12月までに、町内全ての小中学校の校舎内のトイレには、洗浄機能付き暖房便座の装備が完了。
教育総務課の素早い対応に感謝!!

Q. 保育園の便座は暖房ではないが、これを暖房便座にできないか。

A. 便座シート等で対応していきたいが、今後、施設全体の整備計画を考えて検討していきたい。

現状. 三ツ星保育園では7月に暖房便座の付け替えが完了。

園児たちも快適な環境に大喜び!!

なお、桜保育園では、今年度、緊急を要する工事箇所があったなどしたため、暖房便座設置については、健康福祉課が次年度に向け対応を調整中である。



問

安心して年を重ねていける町に、 今、重要な四つの課題を問う

答

訪問看護は順調、移動手段は 関係機関と検討する

1. 医療福祉事業の状況

質問 4月新スタートの訪問看護事業は、高齢となっても、住み慣れた自宅で暮らしたい方にとって重要な施策である。事業の状況を伺う。

町長 現在、順調に推移している。利用者増が見込まれる中、健康・福祉の充実に取り組みでいく。

高齢者福祉課長 スタートから8ヶ月間で約765回の訪問実績。町民の安心生活・サービスの向上に努める。

質問 町の課題、訪問リハビリの導入、医療介護専門職人材の招致対応はどうか。

高齢者福祉課長 訪問リハビリは、町外1事業所が対応している。

総務課長 専門職の確保は、他市町との競争もあるが、優秀な人材確保に努力したい。

質問 台風24号時の長期停電で明らかになった電力機器利用

町長 在宅患者の災害時の対応は。

高齢者福祉課長 電気機器を必要とする対象者は、町内で約94名。災害時の対応等を今後も関係機関等と協議していく。

2. 町民の交通手段の見直しの必要性

質問 町民の約半数が高齢者となり、運転免許返納問題がある。

る。きめ細かな公共交通手段充実が必要であり、他町の事例を参考にすれば、有償ボランティアで、タクシーと変わらない移送手段もある。全体を見直し、町の実情にあった、利用し易い方式に改善すべきではないか。

町長 町全体に良い移動手段確保は、非常に重要。経費もかかる。今あるものを無くすのは厳しい判断が必要。提案のように自家用車の活用事例もあり、関係機関等に諮り、今後の対応を考えていきたい。

質問 大鐵が撤退する寸又峡路線バス

を、町が行うが、観光客拡大につなげる環境にやさしいバス導入などの工夫はできないか。観光関連機関と協議検討していく。

観光商工課長



国補助でこんな車も導入可能。
(環境にやさしい電気車両)

3. 伝統文化伝承館活用と周辺の整備

質問 伝統文化伝承館の活用について、どう考えているか。

町長 赤石太鼓を中心

町長 川根高校への進学につながるなら、当然、部活再興に協力したい。全国レベルのカヌーと弓道が、町の文化という位置づけになれば、当町を指し全国から若者が来てくれる。できることからやっていきたい。

質問 周辺環境は、現状必ずしも良好と言えないが、町民が楽しめる、公園のよう

な周辺整備が必要では。
社会教育課長 施設を活かす周辺整備も関係機関と調整し有効活用を検討していく。

4. 川根高校魅力化

質問 中川根中学校弓道部が県大会・

全国大会等で素晴らしい活躍を続けている。川根高校には弓道部がない。中学生の希望も受け、全国大会も狙える川根高弓道部を再興されるよう働きかけ、カヌー部と合わせ川高の魅力化高揚とされ

いか伺う。



石山貴美夫 議員

一般質問



山本信之 議員

問

自治体財政状況について

答

財政運営を議会とともに推進していく

質問

平成31年度予算において財政規模はどう対応していくのか方針を伺う。

町長

今年度当初予算61億9500万円は下回ると思う。事業のタイミングや優先順位を考慮し、必要な事業予算を確保していきたい。我々の責任は「夢ある未来の川根町」であるということ

を明確にして進めなければいけないと考えている。

質問

赤字は早急に解消することが必要だ。考えを伺う。

総務課長

町としての独自の歳入の増加を図るなど、歳出の削減に努める形で赤字の解消に向けていきたいと思う。

質問

毎年基金が減っていることに対して、どのような対策をするのか伺う。

総務課長

事業のタイミングや優先順位を考慮しながら、町の限りある財源だけでなく、国・県の補助制度や有利な起債等を最大限活用して、基金に頼ることのないよう、町の状況に合った自治体運営をしていくことが重要と考える。

質問

茶茗館の施設機能を上げていくには、どのような考えをもっていいのか伺う。

農林課長

経費をかけずに川根茶を多くの方に知っていただき、購入につなげていくような努力をしなければならぬ。施設維持経費に見合う入館料とすることは困難と思われるが、今後も経費削減、入館者増加のための努力を関係機関と協力していく。

質問

31年度の予算は、5年間程度のシミュレーションをどう



フォーレなかかわね茶茗館

総務課長

考察し、今後どう対応していくか方針を伺う。31年度における一般財源は、本年度と比較して約2億5000万円の減と見込んでいる。今後の予算編成では、経常経費の抑制を進め、より投資的な事業執行に必要な一般財源を捻出していくことが求められる。事業計画の段階から、行政と議会が一体となって進めていくことが大切だと思うが、考えを伺う。

町長

議会と行政との関係は、自治体運営において非常に重要である。互いに現状認識を深め、町の財政状況や直面する課題などを常に意識しながら、町政運営を議会と共に推進をしていきたいと考えている。

質問

事業計画の段階から、行政と議

問

公共施設の展望について

答

集約化、複合化、転用、廃止の検討



議員 菅田靖邦



学校施設の集約化は？

質問

施設総量の適正化の観点から、

当町における集約化できる施設の考え方を伺う。

総務課長

集約可能な施設は多数は存在しないという認識だが、町財政の状況を踏まえ、今までとは一歩踏み込んだ検討が必要と考える。

質問

学校施設の集約化が考えられるが今後の統廃合も含めた考え方を伺う。

教育総務課長

今後AI等が活用される新時代の教育に向け調査研究等を行う中で、現有施設の有効活用と維持管理方法、整備方法等についても検討していく。

質問

資金調達の手法について公共施設の設計、建設、運営に民間の資金、ノウハウを活用するPPP、PFIの採用についての考え方は。

総務課長

PPPは、指定管理者制度、公設民営方式等に加え、自治体業務の外部委託

等も含められている。

過去、導入の話題となった手法だが、事業

への民間参入の難しさ等から導入に至っていない。今後の導入、活

用に向け検討していきたい。

質問

そうした公共施設も含め、次年度予算に当たって町長はどんな指示をだしたのか。

町長

財政状況を勘案し今やるべきこととか、継続可能か、負担に見合った効果を得られるか、総合的に判断し、短期、長期あるいは中期でやるべきか、メリハリをつけた予算要求をするよう指示した。

質問

ライフラインの対応から、9月の台風で高度情報基盤の被害はどの程度だったのか。

情報政策課長

無線機の障害が2件、光ケーブルの断線が2件、更にネットワークの心臓部センター設備において停電の影響をうけ約20時間、機器が停止した。

質問

そうした損害を最小限に抑えるためにされていることは。

情報政策課長

一般財団法人の全国自治協会の建物災害共済に加入。風水害の場合、復旧経費の5割、雷被害で10割となっており、また平成27年に光ケーブル、



ライフラインの充実は。

無線機等調達に時間を要する機材を準備している。

質問

センター設備の障害についての説明を伺う。

情報政策課長

無線電装置からの給電が停止した。その影響を受けて機器が障害を起こし、かわねフォンとインターネットが停止した。

質問

最近、屋外放送の不具合を聞くが原因調査はしたのか。

情報政策課長

設置後約3年が経過し、各子局内の放送機器の接点部分の不具合が原因という報告を受けた。その点検と調整を指示した。

一般質問



野口直次 議員

問

大井川の水利権更新、町の考えを問う

答

現在の流量を最低限維持する

○大井川の水のこと

質問

平成31年3月31日、川口発電所の（付帯設備塩郷堰堤を含む）水利権更新時期に対して町の考えを伺う。

町長

最低限、現在の流量を維持していくことが、自然環境の保全のために大切と認識している。

質問

塩郷堰堤で大井川表流水を現在毎秒最大39トン取る仕

組みを、川の水量維持のため取水量を少しでも減らすため住民の代表である知事に要望できないか。

質問

今所、要望活動は考えてはな

町長

い。発電所には水利権があり、下流域の生活用水、農業用水、工業用水の既得権の見直しがないと難しい状況と思われる。

質問

次回の川口発電所の水利権更新

期間は、どのくらいか。従来30年だったものが、法律改正により、20年更新になると思われる。

質問

大井川の土砂堆積等による浸水被害対策を県に要望できないか伺う。

町長

漁業組合との関連もあるが、国の直轄区間と県の管理区間があり、国の護岸整備は95%を超して整備されているが、県管

質問

大井川の歴史、水の大切さ、又、恵みを今の子供たちに教える機会というのはあるのか伺う。

町長

将来的に子供たちが、大井川の有難みを分かっていたら、大井川の清流を守る「大井川の清流を守る

理区間はまだ整備されていない。今まで以上に防災面からも、議会とも協力して、更に要望していきたい。

質問

大井川の歴史、水の大切さ、又、恵みを今の子供たちに教える機会というのはあるのか伺う。

町長

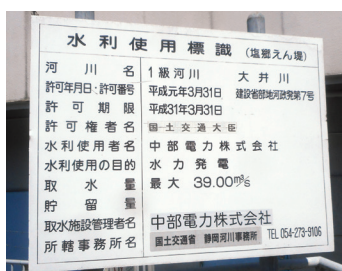
将来的に子供たちが、大井川の有難みを分かっていたら、大井川の清流を守る「大井川の清流を守る

質問

大井川の歴史、水の大切さ、又、恵みを今の子供たちに教える機会というのはあるのか伺う。

町長

将来的に子供たちが、大井川の有難みを分かっていたら、大井川の清流を守る「大井川の清流を守る



塩郷堰堤の水利使用標識

○川根高校について

質問

川根高校は地域を重んじる学校で、当町も一生懸命応援している。今後の支援にも限度があると懸念されるのではないかと

町長

県からの財政支援が厳しい中、町ができる限りの対応をして3年ほど経つが留学生制度は学校を守った。多くの皆様の

支えがあつてここまできている。

質問

安定的に継続するためにも高校、同窓会は勿論、留学生の保護者、行政、議会、町民みんなが自分のこととして、今後を考える必要があるのではないか。

町長

引き続き支援していくには、町にあつたやり方、町のみならず同窓会を含め、多くの皆様の更なる支援をいただけるようしっかりとした方針をもって対応していくことが大切である。



川根高校案内看板

～川根本町議会～ 大井川源流部調査レポート

J R東海によるリニア中央新幹線工事により、様々な水の問題が心配されます。

トンネル工事による地下水脈の変動に伴う表流水の減少、水質の悪化、水の汚濁、土砂堆積などが挙げられます。

また、希少な動植物が生息する南アルプスの自然環境、生態系への影響も懸念され、静岡県と流域関係自治体（8市2町）が一体となって課題の検証に取り組んでいます。

川根本町議会では、実際に大井川の源流部を視察し、現状を知り、今後起こりうる課題等を考察するため現地調査を行いました。



上流部の土砂崩れにより堆砂が進む畑薙第1ダム上流部の橋の様子



畑薙第1ダム上流部の赤崩の様子



椋島ロッジ付近には工事のための宿舎が建設される予定



上流部は随所で土砂崩れが発生している



リニア建設工事のための斜坑出口付近を確認



田代ダムで東京電力の職員から説明を受ける

リニア工事に伴う源流部の調査ということで実施したが、実際には、源流部の山崩れや体積土砂の現状を目の当たりにすることができ、トンネル工事が与える南アルプスの自然環境や大井川への影響など、町議会として、町内に限らず、流域関係市町への情報発信が重要であると再認識できた視察調査となりました。

12月定例会最終日に中川根中学校3年生が議会の傍聴をしました。

一般質問の様子を傍聴し、感想を寄せてくれました。その一部を抜粋して紹介します。

(O・Yさん) 本町には様々な面において多くの問題があり、1つの質問に対して、とても詳しく説明されていました。予算編成について、メリハリが必要であると答えていたのが印象に残りました。

(S・Yさん) 本町は、赤字が増えているということです。基金が減っている中で、公の施設をどう活用していくかが大切で、入館者の増加や経費について考える必要性を感じました。今後、消費税、森林整備、子育て支援の一般財源の増加がある予定なので、工夫して活用できたら良いと思いました。

(N・Sさん) 質問と答弁だけでなく、その中に双方の意見が含まれていました。しかし、質問に対する具体的な答えは、まだ、検討中ということで少し残念でした。予算不足に対しては、独自の歳入を生み出したり経費を削減したりして対応していることが解りました。様々な面から町のことを考えて、話し合いがもたれていることを実感しました。



まちの話題



議長表彰

寸又峡で「和紙のあかり展」が開催されました。

今年度も寸又峡温泉にて、第13回「和紙のあかり展」が10月15日より開催され、県内外から91点の応募がありました。作品は、15日間にわたり温泉街の道路沿いに展示、審査が行われ、12月の温泉感謝祭の時に入賞作品の表彰式が行われました。議長賞作品には中澤議長から表彰状が授与されました。入賞作品以外にも力作ぞろいで、素晴らしい作品ばかりでした。



金賞「風にのって」



銀賞(議長賞)「羽花」

久野脇いきいきクラブでは40年間書初め大会を開催しています。

いきいきクラブ久野脇松寿会 会長 寺西 勤

私たち「いきいきクラブ久野脇松寿会」会員約40名は、ボランティアとして年5回ほどいろいろな奉仕作業をして活動しています。

いきいきクラブの中には、いきいきサロンと言う別途クラブもあり、会員全員が参加し活動しています。その中で書き初めの行事を40年前から毎年、年末に行っています。

目的は「一心になりやってみよう」です。上手、下手は関係なく何もかも忘れ筆先に向かい、やってみよう、と言う精神がボケ防止につながっていると考えています。

今回の題材は『一笑一若』一回笑えば一才若がえるです。それぞれの個性で大きく書き、地元の防災センターに半月ほど展示しています。これもボケ防止と健康でいられる秘訣だと、おおいに楽しんでやっています。





《元藤川地区》中村光四郎氏(なかむらこうしろう)

お茶は、平安時代後期、今から約800年前に、「栄西禅師」が中国からお茶を飲む習慣を伝え、その後、鎌倉時代に、「聖一国師」が、現在の静岡市の足久保にお茶の種を蒔き、栽培を始めたのが最初と言われます。

川根茶の始まりは、定かではありませんが、江戸時代には、「徳川家康」も好んで飲んだと言われています。

また、3代将軍「徳川家光」の時代には、年貢として納められたという記録があります。

*「中村光四郎」さんは、何をした人ですか。

(1) 現在、川根地方に伝わる手揉み製茶手法「川根揉み切り流」を考案した人です。

- ① 1885年(明治18年)、元藤川に生まれる。
- ② 1899年(明治32年)、元藤川に製茶学校ができ、「海野太七^{たしち}」先生から学ぶ。
- ③ 20才代では、榛原郡内の製茶競技で、優秀な成績を収める。また「青山勘蔵^{かんぞう}」先生から学ぶ。
- ④ 29才の時、榛原郡の製茶の教師を命じられ、指導に励む。
- ⑤ 1923年(大正12年)、38才の時に、静岡県の手揉み茶研究の中心である「静岡県農事試験場」の教師となる。
- ⑥ 1959年(昭和34年)、72才の時に、「川根揉み切り流」が正式に認められた。



中村光四郎氏



当時の手揉みの様子



万世橋近くの顕彰碑

(2) お茶の新種「やぶきた」の苗木を、川根本町へ最初に導入した人です。

- ① 1945年(昭和20年)頃から、静岡県農事試験場(金谷町)から譲り受けた。
- ② 当時は、戦争のため食糧難で、各家庭は、さつま芋、里芋、麦など穀物の栽培が主の時代であった。よって、当初は、すぐに、食料とならないお茶は敬遠されたという。
- ③ 光四郎は、川根地方にとって、「将来の換金作物となり得る」という先見の明をもち、各農家に栽培を奨励し、茶の栽培を広めた。
- ④ 苗木は、試験場から金谷駅まで大八車で運び、大井川鐵道で駿河徳山駅まで運んだ。そして、また、大八車で元藤川まで運んだ。

*「中村光四郎」さんに直接指導を受け、大きな影響を受けた人は、誰でしょう。

元藤川の人が多い。山元薫氏・高田一夫氏・相藤良雄氏・小川与平氏・中村徳雄氏・中村清氏・中村実氏・小平令二氏等が挙げられる。これらの人たちは、すでに故人となっているが、川根茶の基盤を築いた人と言えよう。

川根本町の明日を拓く人たち

今回は、碾茶生産を川根本町で、最初に手掛けた「農事組合法人わらやま」を紹介します。
平成30年に好調なスタートを切り、「心をひとつ」に頑張っています。

「天空抹茶の里」わらやま

農事組合法人わらやま 代表理事 市川弘幸

「農事組合法人わらやま」は、原山地区の2つの共同製茶工場の再編により平成16年に設立されました。

「組合の発展は地域の発展」を合言葉に良質のお茶づくりに努め、平成18年には全国茶品評会において農林水産大臣賞を受賞しています。

近年は、煎茶の需要低迷などによる生産量の減少、組合員の高齢化といった課題を抱え、将来への不安を感じていました。

そこで、町をはじめ関係当局から支援をいただき、市場ニーズの高い茶種産地の形成に取り組むこととし、平成30年から抹茶の原料となる碾茶の生産・製造をスタートさせました。有機栽培や共同作業制などの新たな仕組みを導入し、試行錯誤を重ねながら取り組んでいます。

碾茶生産初年度の組合運営を通じて、組合員の意欲や団結力が再び高まってきていると感じています。今後も心を一つに高品質なお茶の生産に努めていきたいと考えています。



わらやまの茶園風景



碾茶製造用機械（碾茶炉）

◆ 3月定例会の予定 ◆

3月4日	月	9:00～	本会議 (定例会・初日)
		本会議終了後	全員協議会
3月14日	木	9:00～	本会議 (定例会・2日目)
		本会議終了後	議会運営委員会・全員協議会
3月26日	火	9:00～	本会議 (定例会・最終日)

○本会議場は役場本庁3階です。
○日時は変更とすることもありますので、詳しくは
議会事務局（56-2229）までお問い合わせください。

**議会はどなたでも傍聴できます。
ぜひ傍聴にお出かけください。**

編集後記

広報委員二年目となり「わかりやすい議会だより」を目指しています。その一つとして各研修会で、他市町の議会広報誌などから、より良い着眼・編集に力を入れて取り組んでいます。今年、青部・下沢間に伝統文化伝承館の開館が予定され、文化継承の拠点として期待されています。ひとえに「人づくり、仲間づくり・文化交流の場」など、明るい未来につながると思います。今回の議員視察では、

「議会活動報告会」のお知らせ
テーマ
川根本町の明るい未来のために
開催日 2月22日(金)
会場 川根本町文化会館
開催日 2月26日(火)
会場 山村開発センター
時間 両日とも夜7時～

伊豆の取組から川根本町が参考になる点がいくつかありました。詳しくは議会活動報告会で発表させていただきますので、ご参加ください。
(中原 緑)